



集義外書

十一之四



曾4
775
154

集義外書卷十一

中庸九經考

一齊明盛服非礼不動取以脩身也去讒遠色賤貨而
貴德取以勸賢也尊其位重其祿同其好惡取以勸
親也官盛任使取以勸大臣也忠信重祿取以勸士
也時使薄歛取以勸百姓也日省月試既稟称事取以
勸百工也送往迎來嘉善而矜不能取以柔遠人也繼
絕世舉廢國治亂持危朝聘以時厚往而薄來取以懷
諸侯衎衎思邦者胸中清明なるといふ公の力のまな
れと公のきこえの力をさしきなり 脩身のあは
盛服と礼服なり介と正しくして邪と妬をたぬと物くさ
なり天子十二章と帝のありて日月のかりと有るを



終遠之也と實と申す第一の戒なり君子ハ小人のあつてもな
らぬそのそれハ小人とのあつてもあつては故に賢者のあけ
申ひりりといふのあつてもいふくも虚説造言とす
虚言らしきものば虚言のあつてもあつてもいふくも
てことやいふくもあつてもいふくも君子を扱とす
かむくを欺をひきまひひ得じとすも知力と盡
さし知力と盡さしといふくも小人といふくも害あつても
君子知力と盡さしといふくも小人といふくも害あつても
先終人と逃げりといふくも上明りといふくも威あつても虚説造言な
らぬ必しも終人と放流せられも去りて同の事なり
く名と名とく名と名といふ放流し終り因り存も天下
の毒光といふくもいふくも上と終人と好むといふくも内侮なり

終言も入又好色の心もさうして小人といふくも入るなれば好色の
君は下には賢者といふなりこの心は明りも心証をさけ
く好む終りいふ人といふくも終りあつても好色の心証を
なり天子ハ十二人徳者ハ九人と官女の教定められ終り
息揚もいふくも貞女のもていふくも内侮といふくも
やうれいふくも女との心証をいふくも凡情といふくも
の中は好むといふくも好色の費少もいふくも或同好
色乃をさういふくも十六人といふくも云乃との大なりいふくも
衣服飲食器物所作事ねいふくも終りの理なりいふくも
人の好色の心証をいふくも常も終りいふくも夫終りいふくも
いふくも分の教なりいふくも終りいふくも夫終りいふくも
金銀珠玉珍器等終りいふくも終りいふくも夫終りいふくも

終り

よめくゝあつゝ自然のたのしき用事も入るゆゑんは空刀
一ふらりゝわらそことゆゑ万と知るれよあつゝの入りたるを
とせしめて百姓のさ役とけし徳士迷惑をいふ虚して礼
の本とも成ぬゝ 大なりお忠の今といれゝとなりこの
ゆゑ其法のうりふよふ千世より上りを力とせむなるゝ
うもみま付代ハ新力ととも合ふゝ精神わじしふよき
れてち力あもととゝた代物も古力よかゝらゝりゝとなり
を治す十世ハ今の米千石なり武士の才とせむものた
かめゝゝいんやゝおの徳物ハ一向もてゝあゝす故に
徳士文道とせゝくたなりゆとぬゝ文と好まゆゝ文と好ま
武家よととゝゝり候よとせゝいひゝ貴族 徳家の入
あまハこれと崇敬なり 徳大を在徳念のゆゑ二年又二年よ

一度百日或ハ二百日なりともとて徳念よて米金と多倍のや
きり候よとせゝ海ゝ心とせむれゝとなり是よりて
徳念のいもとせゝ九代もとてゝも也是前ハ相別 貞時
徳と賊とて士氏とせむとせゝと知れゝとなり 相換入道
の時の風俗いもとせゝ徳物とせゝ 金銀とせゝりゝ文と好
徳念とせゝりゝひ看ゝよりて用ゝゝこれハ家来とせゝりゝめ
成ハ持持とせゝか 百姓とせゝりゝけ石とあゝりしてとせむ
に故ハ徳大を一玉の一年の物故とて一度の在徳念の用ゝ
きりしとせゝりゝ大力や力たゝと金銀物徳ハ金銀米を好む
なり存服料理候ゆゑとせゝりゝ好色候ゆゑなり 武士の家
業もれゝも武徳とせゝりゝあますいんやゝ文學とせゝりゝ
とせゝりゝ徳大の坊主のよとせゝりゝ武徳ハ徳念のゆゑ 武士ハ

と一公なりといひていふこといふこと名も勇士の言なりといひ
義經の文学ありし書はもとよしく通一のいひに辨也も文学
は世をなすに他をなすよりさう馬共法を在るいふ言なりといひ
相成るに道言せし書は勅学といふなりといひていひて
武藏のいひにいふ及んたれいふと足利家にも今川の良後
文武二道の名をなすといひていひていひていひていひていひ
以良後いひていひていひていひていひていひていひていひ
人なりいひていひていひていひていひていひていひていひ
そのまゝ大田の道親いふと好く名將のいひていひていひて
武たふきいひていひていひていひていひていひていひていひ
とさういひていひていひていひていひていひていひていひ
信もはまの市井いひていひていひていひていひていひていひ

世有る人いひていひていひていひていひていひていひていひ
けいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけ
の二道といひていひていひていひていひていひていひていひ
のいひていひていひていひていひていひていひていひていひ
文学のいひていひていひていひていひていひていひていひ
文といひていひていひていひていひていひていひていひていひ
まゝいひていひていひていひていひていひていひていひていひ
文と好む者といひていひていひていひていひていひていひていひ
一公のいひていひていひていひていひていひていひていひていひ
位乃武士のいひていひていひていひていひていひていひていひ
かゝる者といひていひていひていひていひていひていひていひ
といひていひていひていひていひていひていひていひていひ

このまはせしむるされど一却してさうらひにれ皆済とをさ
けきし小人多かりしをさる故なり貴徳の有法の人と
さるなり天下の家のいふる有法の人なりさるなり
を一賢者よあまのいふゆゑふ天下をさるれなり初賢の
賢として知力と徳とをさるなり又能人の大疾と作と
しひく留夫の統とさるなり天下と年法と一此の造化
と物とさるのされし國天下の政の財用のいふ大事なり
貨財の表子のいふしむのちもた財用の統といふにさる
さるものなり庶人の年とをさるれも是と制さる統とい
ふあり君子有法とさる貨財といふしむれ天下の
貨と制さる統といふあり四海の困窮の財用の統の高
ふさるよりとさるなりとあり上の天統さるさるさる大

礼のかり付を留有の大高ともい盜賊のいふ害さる統と
年と天下の若とさるなり一と昇りさるものなり
尊其位の一向の九人より位とありさるありは主分よ
ありてさるなり也帝堯の民間の舜とありけり賓客
九人のゆきさるも此三人より位といはれは後より後と今一
とゆかりさるなり一と知り一と位をさるなり天位
人爵天爵おるの力をさるなり房玄齡言ふ云奉府舊人
未遷官者皆嗟怨曰吾属奉事左右幾何年矣今除官及
前官前府令後上曰王者至公也私故能服天下之心設
官分職以爲民也當擇賢才而用之豈以新舊爲先後
哉今不編其賢不肖而直言嗟怨豈爲政之體乎二人
又この故より有道の代りいふなりとさるなり

舜より代唐と成りて有序と治りて先王と象の二國
の祿と文ののちより象の九情瓜分國より及ぶと成りて
王代より一任の國年の交順と成りて法を治りて先
百官の國の貢物と成りて治りて先王の遺風を治
山川の海を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
大國の象の象を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
象と成りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
有厚の封して貢物ののちより先王の遺風を治りて先王の遺風を治
日中と成りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
天理自然の象の象を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
人君の象の象を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治

時勢人情を知りて法を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
故より天下の象の象を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
象の象の象を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
ゆりて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
かゝる象の象を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
なりて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
神皇の象の象を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
知れりて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
河漢の象の象を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治
云々と成りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治りて先王の遺風を治

何れも大層といふべく、たゞをく心と盡そとのちうり後せぬは
大層のまゝにせり、ゆゑこれに権威にたうりゆゑをこれと
うしひるるあり、故に後世に家、ゆりたる大層いふるもの
極くあり、執政を何と高らとく、小大信は武河といふす
才徳有人とあせり、宰相の職とて、これに付るは、権と治りて
一代きりに用ゑるも、ちうり先よりて、君威とちうりて、
大層も、不毛の、貴君を、神も、二百年、三百年つゞき、
ちうり家、ゆりたる大層の権と、取て、子孫、及そ、君の、子孫と
其、身の子孫も、ちうり、不毛、と、君威、ちうり、これ、権の、ゆり
人と、ゆり、申ひ、と、ちうり、あ、ちうり、い、ちうり、そ、日、本、王、代、と
是、世、の、時代、ま、て、八、王、威、つ、ちうり、一、故、に、此、大、群、の、儒、者
と、て、文章、生、を、り、し、と、大、層、を、ちうり、と、大、下、の、政、と、あ、き、し、也

後、つ、て、後、折、家、の、ちうり、い、ひ、く、ね、定、の、ちうり、家、の、外、の、権、と、ちうり
大、層、ゆ、り、を、ちうり、先、より、て、王、威、日、と、く、表、さ、り、君、威、と
ちうり、ちうり、を、ちうり、ゆ、り、と、大、層、の、威、と、ちうり、ちうり、を、ちうり、
と、い、武、家、の、大、下、と、い、は、れ、と、ちうり、同、い、ちうり、た、か、ち、の、ま、た、ま、
の、ちうり、政、ま、ち、の、ちうり、な、り、に、あ、ちうり、人、間、の、中、年、受、知、の
と、ちうり、こ、の、ちうり、其、中、の、ちうり、病、苦、憂、哀、の、ちうり、ちうり、ちうり、有、と、
公、事、を、ちうり、し、ひ、日、に、ま、ち、い、れ、執、権、の、大、下、國家、の、昔、と、い、ひ、
ま、の、人、よ、つ、つ、の、ちうり、を、ちうり、人、よ、ちうり、ちうり、や、ま、の、ちうり、と、信、ちうり、
ちうり、これ、よ、ちうり、と、く、一、生、の、ちうり、ちうり、く、愛、の、こ、と、く、は、ちうり、
ちうり、ちうり、の、ちうり、也、勢、と、い、ちうり、て、い、ちうり、や、ま、の、ちうり、
ちうり、の、ちうり、一、俗、俗、の、ちうり、の、ちうり、ま、ち、の、表、徴、の、ちうり、
故、老、の、末、町、を、ちうり、の、末、代、の、末、と、い、ちうり、と、大、層、の、代、を、ちうり、

不忠を執政と似く誤せしうあるは非也
このまゝに法物をまきし公衆のついでなほかきり
あれはあつたかきりある生とついでにおくもさき
うまひとゆはとついでにして
もあり何の益なくして害のみたるといふは
人ととつてあをて執政して
とれにせり其方一生のこのひとゆは
とよ子孫にたよりあり
天下の執政は成るは宰相職とのま
國政は終つた今の合方は終つた
公儀の法役人を使はり直臣に
用をよくとつたは終つた
子の孫にたよる

親のまじつひにたり子孫もたつた
内の子孫はかくて昔方をかくて
才徳があらうとて傲つた
費用はつたつた
たもよあらうとて
公と害をたつた
ついでにわかく職と終つた
ゆはとつた
公と害をたつた
ついでにわかく職と終つた
ゆはとつた
公と害をたつた
ついでにわかく職と終つた
ゆはとつた
公と害をたつた
ついでにわかく職と終つた
ゆはとつた
公と害をたつた
ついでにわかく職と終つた
ゆはとつた

終つてこそあらそふをそと郡地と爲られた一二百年のふる
まの終りたる地なり故よりよりあるにあらむをわすれ
よりして大なる人の勅目ありて中へそとあらむを其意よ
とありての故とてしめとて其意を家とあらむを其意の
とて余への地をこれにせむ世の絶と絶て國と廢さる
とありてみまわるとて治めて先とあらむを此のあつと
柄も極する非道もあらむありこれ七國の端なり一の
あやまりより万のひりとてせむるものなり忠信主権の故
ありて礼儀中へく大なる士と賞して福とまきと
人の野くをこれに風俗ありて成と極ありて世のつと
りめむはしむる多くと文武の及んとつとむるものをり利榮
才覚を有る者とい忠信の人のむに極くと事よむひて可なり

人と用ゆるあらされと天下の士者もあらむをのなり時使爲
歎ハ農のときは成さゆとけそ年貢とうあくむなり宋衛
湯王義季常春月出政有老父被管而耕左右行之
老父曰盤干旂旼古人所戒今湯和布氣一日不耕
民失其時奈何以徒禽之樂而驅作老農也義季
止馬曰賢者也命賜之食辭曰大王不奪農時則境
内之民皆飽大王之食老夫何敢獨受大王之賜乎義
季問其名不告而退むり一農兵として武士民間あり
曰鳥ももと備一山狩りもも一川流もももり一風
多ありてりて力能國なり軍陣もももこの名一在り
名をこれをよけて以来日月なく且後教代の忠儀ある
六人七人つれももも一人とんかた其勇つとくと人

お中とよあつんとあつていと家とま上下のふ所すかき
よれ人どつりつとてなきと教へ風俗とよくしつるなり
後世のあつてつるなりあつて君の執入つるそのふ國教とあつて
和主とあつて國教のあつていとと執入つるそのふ所すかきと
家と絶つてあつても嫡子とつるといつてあつては神として
それらといふことを家中の口説かしてあつてあつていふと
りもよかつてよく方代とつてつて子孫の不先なりて教
せくとあつていふおのあつたてとつてこれなりこの所は流浪
人まのあつてつるおのあつたてのあつてつるおのあつたての
なりつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
なりつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
これ世中の風俗のなつてつるおのあつたてつるおのあつたてつる

てあつたつてつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
子孫者よりよくおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
いふ所なりつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
なりつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
よつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
せつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
穿人の旁執よりよくつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
氣もあつてつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
たつとつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
左遷の法ありつてつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
を世は左遷流罪目よりつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる
よつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつるおのあつたてつる

いさく役とすするなりむくの罪ありた罪とさむむら
入雲とてし来つとみ波新とるやうあまふに候なり貴
とりまきもあふぬものをくゆるまぬ候ふとの物とありて
門番をさすとすするあり後せはた罪ふつこのいさくは
くくふなり是盗賊杜氏ノ様とまきなりいんやた力
の毛く穿人多とや候君い候と知れて天下の古き
家のまきとる極まき流浪人の出来たり候まきなり
は附下よりをくまきなりまきのいさく人なりこの候ま
よりてまきなりものいさく九百七十八人まき人いさく
まき家久しとこのゆるとのまきとまきなりむら
國郡は自の跡とえをりたぬまの人とた力まきとつた
らくに其家中の士うこうも國付ありとるなり一人と

他まきなりやうにせしとありこれと又一道なりこの
巻終り同くぬまきものまきとて親方子孫との申分
もくもあらぬまきもくも申分もくも申分のまき
明白なり武士の巻とる候に城にありまきと程中間
まきと城に任所あり候まきもあふまきなりむら
まきとこのまきとまきと一任所とあり候まきなり
はらとまきのまきとつたに申所とて國郡もよひ出まき
まきと職まきとつたに候まきとて候まきなりまきと
まきとて官職とつたに候まきとて候まきなり
まきとこのまきと候まきと一任所とあり
まきとこのまきと候まきと出まきとつたに候まき
まきとこのまきと候まきと出まきとつたに候まき
まきとこのまきと候まきと出まきとつたに候まき

役人ともあつたもの馬まのりかゝして大橋を渡る。而た多
か身代を宗子一人の親の跡よりとて移居せし妻を相次男
と男よりのまゝにひきつれ。宗人ともありて他とせし
やとす。國をたゞさうのそのまけをたれり。舊徳あはり
よれば實をたては言付さく。治世久しけし。宗人
まをく。義成と杜氏に。宗より祖と云く生さる
宗とも親よりなれ。宗人とも。理あけきとも。風俗
成てりてめ。此れ又礼世の端なり。且中問をといはぬ。然て
春の作民とけり。とよれば。まきり。城に。妻を。と。指
家。居。教。と。さ。く。と。れ。と。其。重。後。と。い。あ。す。と。さ。り。さ。く。智
付。と。さ。く。や。う。を。一。智。の。也。一。け。し。の。盗。と。も。一。あ。く。あ。せ
る。もの。を。り。後。の。國。君。も。ま。く。を。一。年。生。あ。く。と。

の。く。さ。く。軍。國。の。な。を。と。め。く。と。り。あ。く。一。代。集。居
は。り。武。士。の。妻。子。且。中。問。の。妻。子。ま。く。と。城。内。に。入。り
去。り。ん。と。い。成。と。さ。く。と。一。と。男。よ。成。て。は。生。を。記。す
あ。う。さ。り。難。儀。有。り。一。農。兵。を。れ。在。り。と。い。は。く。い。や。う
あ。せ。さ。く。ま。ひ。あ。り。り。な。れ。と。男。子。を。り。と。城。も。入。四。陣。も
と。れ。と。何。の。愛。費。も。あ。く。と。一。と。人。を。り。と。あ。り。て。も
取。り。た。居。を。と。り。母。の。妻。子。と。城。中。に。入。り。と。さ。り。と。さ。り。と。さ。り
か。れ。り。の。り。と。さ。り。と。さ。り。と。論。の。や。う。な。れ。と。聖。人。九。經。の。政。を
そ。し。け。の。鬼。事。ま。く。と。本。所。記。據。と。り。と。胡。聘。以。將。朝。の
法。侯。帝。を。た。れ。と。と。天。を。と。ま。く。と。ゆ。り。と。云。と。云。と。云。と。一。夜。を。り
聘。の。年。と。一。夜。を。ま。く。と。使。と。一。年。と。一。夜。卿。と。使。と。一。と
天子。に。土。産。と。り。と。さ。り。と。定。教。の。印。と。い。は。り。と。い。は。り。と。使。と。

土産等と有りしものなりは僅其の儀法も一日一と異
人枚定るとくいつく事ありて風俗等のさり有と
とそれの何れにほども若一日も定むよりと申されい
ましひり有りぬる中しそりかみは僅其をこれ
法もあつたり時とけくさるぬ有り日中玉代のとれた
二年より一度の上流くつと小玉とを記ぬ有り申す十日
より多の居たりし有りむ人志らなり徳治の遺風なり
厚徳薄来法差よりの土産ありて帰風のと記す天子
よりのと記すとのい多しと代法も名り土産よりも所帳の
と記す大樹よりと記すの多し遺風なりと武国天子
城内の代は帝土の代と記すありてかあのとく天下の
法差よ厚く記りりうとく史記の何と記すう万平

そのひゆりとも云これの僅其の礼用なりぬる所の有り
よりいふ所は向とのまし法差皆在國とく帝とよ
つ先よりぬる定まぬ有と有り有りぬる礼を
ありて首ととも天下と命とくは之をりとも上と下なる
流ふふのけし法差ありて治るる用の多ありむり
奥の考平雨家とありて在在せしかとも
天のた者も首の毎年黄金伝へて申すまけり
お初めとありてありしと右のましこれなりと風なり
武家乃代と成く在徳治よりとて國用多伝の記
ゆゑ法差の有やし有り首とまけりて在國ありの
法差と天下ましとより記すなり士民もこれとあり
因窮せられた武士百姓よりふゆりなりお初めとあり

法皇と在徳倉と一むらひの用心と見たり志は
切り王代の二十分と世と持しあはさす於細の
と然いさむ右風の通りて物とふあく共と之代と
とも年教とくかよりし久在徳倉ゆへ法皇困窮の法
そくが案に於ては儉約と常と一りゆへ九代まで
法皇とよりうけし切りて成つて満着きいなり一
一國の一年の物よりあく一夜の在徳倉の用とあり
より一とありこれよりして法皇と一士民困窮
く大乱の果は足利家の天下十三代に中法より
一方と云名よりふく今の公家の如く一は士民困
窮して困窮せしゆなり天子法皇のたう三つあり
おれ人氏法皇をよりあつゆへは法皇と一士民困窮

文政九丙戌年正月八日於宇土郡網田山寫之

中村直道

集義外書卷十二

窮理上

一朋友同大學治國平天下此理と痛しは事の理ときりゆら
一事とそとて任ありてと政とそよりれをくひるありし
とゆゑとては君中なるも多か 答云ありて我未終
るもいも大學治國平天下の義論を或い言ふ此のくは
其の世中ありきとと中にも時勢の政を殘して不倫
大義の義論を可承ん 同執政の令してハ親
親知者中に社をありてを意して人よのそくひる不
能りや 云それ社と申すもその親知者の具負と
そゆゑのゆゑりはハ執政の職にかりけの依りてハ儀
ゆゑハ親政のつとめありきとて退て我が内よはねと

を親疎のあつてお計作さるる國のたゞいとして
なれば教のついでに大いなる人をも
他人をくはを意をくくしとて——其れより——兄弟一門をも
其の害よりなりぬるものをおやまうてまはらうとせしむる
しごとれしき実と仰し——ておまうくうを教ふ一門のた
人とを意——して他人をたすけしめし人の一門はあつて
人あらざるものなりぬるものなりぬるものなりぬるものなりぬる
ありとて大いなる人をもたすけしめし人の一門はあつて

一門金は月よりもあつて其れ内をその意よりあつてその
いして執政より一門知者有るは益のなるを害するといふや
云ふくは益ありぬるものなりぬるものなりぬるものなりぬるもの
引て思ふし——しつらるる人々の人々の人々の人々の人々の人々の

結まゝとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
りたるは十人なりぬるものなりぬるものなりぬるものなりぬるもの
同くと下の政道はたつたるものなりぬるものなりぬるものなりぬるもの
窮乏なりし神をその分別もかゝるものなりぬるものなりぬるものなりぬるもの
いふゆゑなりぬるものなりぬるものなりぬるものなりぬるものなりぬるもの
おはすは君臣の礼をわきまをきりて仕はるる公卿をさうりて
分別思ふもさうりて其れをさうりて仕はるる公卿をさうりて
おはすは君臣の礼をわきまをきりて仕はるる公卿をさうりて
此時の世をその天下の政道のおはすは君臣の礼をわきまをきりて仕はるる公卿をさうりて
此時の世をその天下の政道のおはすは君臣の礼をわきまをきりて仕はるる公卿をさうりて
やうの物をその世をその天下の政道のおはすは君臣の礼をわきまをきりて仕はるる公卿をさうりて
以秋をその世をその天下の政道のおはすは君臣の礼をわきまをきりて仕はるる公卿をさうりて
たふきく世をその天下の政道のおはすは君臣の礼をわきまをきりて仕はるる公卿をさうりて

くは上代の代に徳さうんよ知大よさるゆゑに天下の
廣きといふもゆゑをくは別名をさるゆゑの
なをいふとお後のひつりきりもなをいふ 同金瓶の拂
此裏判あまて執政れ人のつとこれ半ありといふ
云々くりりいさうもさうしてむけひさくの吟味裏判おの執
政のつたけく助成人のつとさうもなをいふおのりも
くの物とつせく大なりゆりゆせりさういふゆあゆ
やうにさうしていふ別名をさるゆゑにいふゆゆゆゆゆゆ
執権職とく一人ありあゆもさういふゆゆゆゆゆゆ
武家の世となりてはさく執政の人官位の名ひさくゆゆ
其ハ云の職とてゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
させゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

人のあふたれうこのをさるゆゑにさういふゆゆゆゆゆゆ
さる大后の節の政とあゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
我まかりゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
事志をれといふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
政の節目力代と撰ます天下の知者賢者とあゆゆゆゆ
あゆゆゆゆゆゆ 同大下ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
をれ事とゆゆゆゆゆゆ 云々三皇五帝れ成徳の世といふ
うゆゆゆ三王の所よりいふ最早世のゆゆゆゆゆゆゆゆ
なをいふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

此介して親子を見ずを初くひらきぬ教をよ君よいせうと
ひのあきともくはひのひをくひ不念息なり親子を見ず夫婦
知者なしは教よくくはひのひをくひのひをくひのひをくひ
のひの親めくも子にくもきひの義のひをくひのひをくひ
不念のひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
きひともひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
すひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
にひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
あきひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
言ひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
の不信一云此のひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
とくはひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ

及理くうむぬと忠と一孝と一ひのひをくひのひをくひのひをくひ
親とをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
の親子をくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
よくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
さほ世のひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
ひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
くひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
事ひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
なりかきひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
もくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
同執政のひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ
とくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひのひをくひ

別一昔乃其時中を私欲きしり心と力とあり
を以執政乃昔乃其分知也けとしく私欲のきしり
なくゆゆいといひわくしあをくても不昔のまの南を紀
よまきれて形氣のをけしひもうすくしとこのはくを
生を以我家のゆい権勢の隆力をとてゆく事多
人情とのはくしあをくても又唐の宗族うけし昔の
神をうけその理よと小のゆいをくぬ家力も大事よ
をゆりそのふくも又小國中よの仁道とをせくしあをく
ゆりそ人をも活きし終矢りた用きし終りた人のあひ人と
るしとくもとれらるゆいしと中よ其高周の初
しと賢聖の君と知り終ひし漢の代よりけしと賢聖
と知りしととれらるゆいと知りしとゆいすゆいと初と

乃仁君君をくしりはりゆいしととくゆいしととくゆいしと
手は百も片くしゆ事い法治よととくしとと大祥の志あり
あはるゆいしとゆい日本はくも王代八千名毎年ゆい
不ゆいしと法登れ終りしとと武家ゆいしとゆいしと後國も
と下ゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしと
子の石可用しとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしと
ゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしと
賢聖君君ゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしと
まりゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしと
ゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしとゆいしと
小倉乃風と其まじた城とをゆいしとゆいしとゆいしとゆいしと
小倉を大よなりしと天下も家のゆいしとゆいしとゆいしと

たぐいそあそひのやうなるゆゑとて天下の統用と化
りやそ事一々なぬつとありあつたりとていふ用の風俗わ
らふらつてのつとありあつたりとて功なり一実ハ世に
色一世にたぐも國君ととも君の威のほつた内とて
あそびとあるはあつたりとて君とあり威ハ初めとて跡と
つきなりと上の威うすく流土親まうたなりぬた統用
よそちのゆゑあつたりとて威のほつた内とて功なり一
そのほつた内とてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
たぐいとていふと知つたりとて一実とてゆゑとて
月姑たや一実とてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
くをよそのと作法親まうた月とて月とて誰とてゆゑと
ても月とていふとあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと

流土とていふと何とてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
くはつたりとてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
なりとてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
らつたりとてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
あつたりとてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
をなつたりとてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
とてあつたりとてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
農兵ハ國の武たつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
ゆゑとてあつたりとてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
農兵とてあつたりとてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
可仕とてあつたりとてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと
あつたりとてあつたりとてあつたりとて功なりとて誰とてゆゑと

法貢法の極をみるのみならずやう終るといふ所の手
貢少くしてその世に成るる世は公方流大なる
用より中流よりきと極み 云日本もむしうい貢法を
ゆきまつくその流入りも流入を多かりぬ相流士にあん
といふとあつて流く穿人 流浪者も亦あつて其子孫
とも小僧國よりして徳能く年一民のその民よりいふ
く門よりいふ可仕流大なるも家長久し公方を流
百千輩もゆくふつりて成るる上中下とて一を
徳のまゝとも世の流ひも亦あつてゆくもその流
りも亦せんあつては任なくして其政ともり
罪も亦なる 同公方流大なるもあつては中下
云公方の世流入といふ所の一もその世に成るる相天下の流ひ

と乃中分つてそのゆへに金銀米粟あまりの是と日中
山脈上國とす一は秋日換の憂もすくはるる方と衆
のなきれば極むつ極のゆへに成るるゆへに成るる
或家の業はう馬のうりかまらひして中一と大道の
業と知人なればなりぬ 同其う馬の流るる人
はうくあつては流るる人なりぬ 云いふ人なりぬ
傳ふる人なりぬ 同其う馬の流るる人なりぬ
も人なりぬ 傳ふる人なりぬ 同其う馬の流るる人
人ありては傳ふる人なりぬ 同其う馬の流るる人
害も可成るる人なりぬ 同其う馬の流るる人
も亦なる人なりぬ 同其う馬の流るる人
とく虎も羽とけりるる人なりぬ 同其う馬の流るる人

同主秘傳はそい及なくんら馬れをたれちあ〜くをりひまあ
と〜り承度いを年いらるた小末一故後〜中ひひ〜此
振成るありか〜世の末〜中〜とや 云世居武
士鉄砲法打刀くらふと知〜る案ら此の獲若軍法を
とい知りひまいまゆの鉄砲法は鉄砲を好〜るせら色
う打刀くらひを鉄刀れや〜又い知るるふ好〜打
き〜此の法よる此〜小の案れと下知〜このせ〜此の事ひま
ひ〜ま〜このひ〜ま〜と武士は用〜る
用ひやういねぬいを何もあ〜ぬる案れは小の鉄のせ〜る
る案れ〜案と〜き〜あ〜るをと居〜た〜ぬやうに
ははひひ〜の各術武士はら鉄持り〜と鉄〜う〜せ〜
〜ひまいをのり〜と費〜〜山坂あけ山坂あ〜〜と居るひ

みそとのり〜るおと〜ま〜法弱為の習力と〜り此細道の
つ〜ひれお持のえん利根と〜う〜ひまい各意と費〜と〜
川とあ〜るせのり〜と〜ひ〜ま〜と〜ひ〜ま〜
且ハ法弱と知杖い責ら鉄貫〜と〜むら〜ら〜らお
れ進るを〜と〜る〜ら〜と〜と〜これひま大略なり
何〜〜てい法は月中〜と案々の甚きめと案〜馬のやう
くぬや〜ぬやうに捕ら平生少はの地あるはひのりあひ
案〜ひひ月也をらるは〜と〜と〜回〜ら〜高〜といす
年と〜に信り何の間より居るとい居居る多々ありま
ふ〜ひ〜あ〜るひ〜も〜何の間つ〜居る〜と〜用〜るま
ぬ〜や〜き〜と〜河又〜と〜り〜と〜川〜と〜何〜は〜ま〜の
う〜と〜い〜先〜後〜れ〜い〜さ〜と〜ま〜者〜小〜居〜ら〜ひ〜を〜れ〜山坂の間

所もまた大男も大様も後より思くしとて我もまた
よ仕に我も成人よふふりきりたるは我とかなん
う傷も地もあふふり後かひんそのまゝやち
まを公やとくあはさな痛もぬくけのこもさうを
らうれた時に法薬もふあひれた後後すうじの人の
しく二十取より内より馬より小走者より取者よ同
然るもつた後後そのまゝを移りあひたけけこの
方と後にもあつていとも甲のいとも甲のいとも
時南世のつた後後尾のいとも甲のいとも甲のいとも
をれたるも不書つていとも甲のいとも甲のいとも
此病なり切くともいとも甲のいとも甲のいとも
かゝるもいとも甲のいとも甲のいとも甲のいとも

取もつてはまゝとよらみあつたはとも物とのいとも
それと吟味もつたもよれたとつたはとも物とのいとも
若もつたりして其人のいとも物とのいとも物とのいとも
あひひもつたもつたのいとも物とのいとも物とのいとも
後かひんそのまゝやちまを公やとくあはさな痛も
ぬくけのこもさうをらうれた時に法薬もふあひれた
後後すうじの人のしく二十取より内より馬より小走
者より取者よ同然るもつた後後そのまゝを移りあひ
たけけこの方と後にもあつていとも甲のいとも甲の
いとも甲のいとも甲のいとも甲のいとも甲のいとも
時南世のつた後後尾のいとも甲のいとも甲のいとも
をれたるも不書つていとも甲のいとも甲のいとも
此病なり切くともいとも甲のいとも甲のいとも
かゝるもいとも甲のいとも甲のいとも甲のいとも

がしつゝのり、内下、作事、ゆき、あ、今、の、は、の、え、よ、の、ま、ま、
 い、め、し、つ、の、る、は、な、ま、十、二、と、も、と、も、の、あ、る、か、こ、れ、り、
 や、その、目、は、ま、く、なる、は、ほど、も、知、人、な、く、武、士、乃、是、と、る、大、
 り、は、ら、瓜、何、の、は、は、ま、く、も、な、れ、る、命、治、方、か、り、と、赤、下、の、る、
 以、て、い、め、し、武、士、の、名、を、い、ゆ、め、も、あ、ら、ぬ、南、人、回、り、の、
 り、ま、う、い、お、と、か、奴、を、い、り、と、い、ひ、ま、る、公、ひ、し、と、ま、た、言、ま、
 瓜、用、い、ま、く、ぬ、や、う、に、い、つ、つ、武、士、の、名、い、れ、知、か、は、お、
 つ、の、か、あ、め、く、と、や、は、外、の、武、蔵、乃、お、く、も、な、れ、と、武、士、
 根、を、と、あ、く、と、他、者、乃、ま、ま、を、い、つ、と、い、は、の、り、よ、回、り、
 う、も、武、蔵、は、ら、ら、瓜、何、と、お、く、一、兵、隊、の、叙、と、ひ、く、青、一、
 と、す、漢、の、ち、は、い、つ、人の、叙、と、け、く、赤、下、と、い、り、深、の、柱、元、の、
 髯、切、と、は、く、赤、下、と、い、り、義、經、い、ら、す、み、う、と、持、し、と、

武、お、の、名、と、は、う、甲、冑、ハ、刀、と、を、く、む、よ、め、能、る、刀、ハ、刀、と、と、
 め、ん、う、と、あ、も、也、能、た、甲、冑、ハ、用、い、つ、の、時、を、能、る、刀、ハ、い、れ、
 知、る、刀、ハ、武、士、に、力、と、い、つ、ら、なる、資、也、と、い、ゆ、よ、を、世、能、治、い、
 刀、乃、精、神、と、う、く、ハ、刑、ハ、刀、に、刑、と、も、を、り、由、來、ぬ、先、
 能、治、と、刑、の、罪、は、は、た、あ、く、は、武、士、乃、は、と、夫、と、あ、き、
 切、ふ、と、の、か、り、武、士、乃、人、ハ、れ、及、と、不、知、ゆ、ハ、世、能、
 初、より、能、ま、り、く、と、好、め、り、ふ、と、こ、あ、り、し、は、も、う、り、付、く、
 切、く、う、と、よ、い、刑、打、ハ、瓜、を、古、為、か、り、し、は、能、め、也、を、ぬ、ま、と、
 新、カ、ゆ、ハ、能、な、り、し、と、ひ、く、と、六、代、ハ、ト、を、な、り、右、作、の、
 法、の、と、く、う、ち、て、ハ、後、世、を、り、と、い、ま、ら、う、り、て、世、能、よ、高、か、
 き、り、く、事、と、仕、の、こ、ま、り、合、や、り、う、る、れ、し、の、好、ま、能、な、れ、
 と、も、こ、かの、精神、ハ、を、能、れ、ぬ、高、か、う、い、ま、れ、し、と、治、事、に、お、

よりゆき也一と記すは此の事も其書は後日思付く事なり
と云ふもよかきれやとて是の代の所代のお物と云
ふ事ありあらん夫上代は法いあり子代は法と扱ふ
は取よむ百取は法を新力れとて或全を上代より取
多し其分を細あり金と稱りこゝに是病の出る事
を云りつらふは法一と云ふ病の出る事と云り又
取くこひふとて持中に是病を云ふ事あり
は之乃大難あるは病と云ふ病の中より求く
難源も不知知なりは取よむ事あり病ある事と云
然と切あるは法一と云ふ病と云ふ事あり病あり
病より病と切あるは法一と云ふ病と云ふ事あり
よ一と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病

入るやと云きり一と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病
れよりあつ一と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病
よききり一と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病
或は刀に病と云きり一と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病
これとはと云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病
砂きり一と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病
取よ難源も高在するは病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病
びり一と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病
今井と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病
と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病
病病ある病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病
剛より病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病

これに果て剛をくればわが子とてさういふ剛柔とて精神
ありて上作をさすも一もときさひはれくしん流ありひよ
あつらひ成るくまぬまきさひひ知をりあふひひ
仁をりまれの實也上作の知仁實の正徳徳くしんまぬ
印武士をりぬまきさう知徳とをゆりり船流の物を記
よとてゆりまれの古徳の法とちかものなり者い社家出家
めと船流のきひくにゆりりそのありき後世一層人の船流の
との正徳くして切りの徳とてあつとをさくかけさの古法
と不守のこりり也このゆりり刀の正徳は高ききり極まう
ゆりりやとて精神とをさうして徳よ心を高くあられま
よゆりりすうゆりりかさく武士をりるは徳とを知れ
船流まふとまなる也ゆりりお上作とゆりり米の物を

打ちをりもゆりりゆりりゆりり物とていふ者のをさすものを
世のあつらひゆりり金とていふはゆりりゆりりまされ
徳よゆりり金とゆりりゆりりまされゆりりまされ
て和とをさす上作をり知のゆりりゆりりゆりりゆりり
ゆりりまされゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりり
まされゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりり
上作をり 同いゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりり
武士のあつらひゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりり
ゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりり
ま物を古法のこりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりり
ゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりり
ゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりり
ゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりりゆりり

あひの何き(物)おやうにほむき(世)ふ(な)れゆ(よ)もあ(な)
け(こ)の(物)お(り)の(ま)み(や)を(り)刀(よ)も(ふ)く(き)ら(く)と(格)神
よ(き)ら(く)と(あ)り(格)神(ま)を(き)向(い)を(向)ら(り)と(お)成(も)
き(ら)く(名)也(と)ふ(く)き(ら)く(い)も(あ)れ(い)を(ま)ま(き)れ(な)り(け)
ゆ(よ)も(あ)れ(は)ぬ(く)の(ま)み(ら)り(と)此(の)罪(よ)あ(る)は(か)き
ひ(り)と(の)あ(ま)い(な)り(り) 同(文)成(と)し(り)一(の)く(よ)れ(守)り
号(と)戸(法)お(り)の(何)き(や) 去(文)成(の)船(法)より(か)り(り)幸(也)
ひ(り)一(ま)お(る)船(法)乃(た)よ(名)用(と)く(な)く(ま)み(よ)刀(と)う(ら)ら(り)
お(の)ち(ま)れ(た)万(り)お(ま)を(く) 決(炭)吃(神)一(と)名(物)と(ら)
お(ま)り(よ)め(と)き(き)一(め)き(れ)今(き)も(ま)ら(り)省(色)と(例)と
あ(て)は(せ)刀(船)法(乃)上(の)一(文)成(乃)虚(名)あ(ま)り(り)と(る)又
例(一)と(し)代(乃)職(人)商(人)も(更)成(の)虚(名)と(ゆ)き(れ)き(り)

同(ま)あ(り)刀(に)之(往)と(り)あ(る)名(理)あ(る)り(ゆ)ら(云)口(お)ら(る)よ
付(と)の(り)と(何)も(ま)お(る)し(り)ら(ぬ)ま(ら)ち(に)は(れ)ふ(り)あり
公(の)法(天)下(の)用(と)ひ(く)い(ら)く(刀)の(法)一(勇)之(威)と(以)て(お)家
と(ち)り(の)勇(中)の(仁)を(り)神(武)と(し)て(こ)ろ(ま)す(わ)こ(成)や(む)
あ(る)名(理)よ(て)す(り)を(る)の(勇)中(の)知(と)知(仁)勇(の)公(乃)一(法)を(り)
有(耐)は(た)よ(あり)故(ま)仁(あ)と(し)の(勇)知(ま)中(に)あり(知)あ(ま)い(の)
仁(勇)ま(中)に(あり)勇(あ)ま(し)仁(知)ま(中)に(あり)刀(劔)之(往)
の(神)武(乃)ま(ま)り(名)清(淨)を(り)て(う)り(名)を(る)と(こ)の(ゆ)は
上(の)の(船)法(の)公(清)淨(を)り(知)あり(船)法(の)法(清)に(り)と
う(ち)お(り)と(る)刀(と)を(神)乃(ま)ぬ(く)ひ(く)と(た)ま(ひ)お(る)は
と(し)り(い)ん(や)あ(る)と(を)た(い)何(き)と(ま)り(と)お(り)と(お)り
用(不)武(士)の(法)清(淨)乃(公)ま(ま)り(と)

文政九年正月九日相定七瀬田山家

中村直道

集義外書卷十二終

集義外書卷十三

窮理中

一朋友同其老書簡、其人の姓名と志を記し、終なき所なり
何うし、ある心持とて、世にや。云、今名も、志も、死後、
可定公生涯、其名を記す、その志も、死後、
なりとの心とて、世に人、心惟是、
人、此、志、心、
可定公、死、
その心、人、
人の、
仍の、
世、

そ人の実徳なくハ後世より誰か一人を有さずといふ却て
尚世乃そ一とまじき一とまじき今世を志すは
主人も実徳あるその誠といはれざるや人舜
の君れ君とかくして君とありはひハ有徳の人れ君
とありはひはひハ世人とありはひハ不徳の
はひハ世の大舜のまじき一とまじき人の君とありは
ひハそ一とまじき一とまじき人のあはれは事ハ世
一何世乃人のあはれは世の志のねるは我と信
人との同意を言ともいふ他人の言ともあけはるは
世の人の君とかくしてそ人の一生は世の人の改
善より世の人の善と信ふなり君といひは世の人の
もやすとありは世の人の善と信ふなり

入徹りたるは世の改むるは世の人の善と信ふなり
そとくは仁愛の原と知ると世の人の

一朋友同友を以て人馬武を以て代はるは世の人の善と信ふなり
代よりそとの人の少くは世の人の善と信ふなり今ハ内
の人のあままりは世の人の善と信ふなり
さるは世の人の善と信ふなり
及ハ世の人の善と信ふなり
そとくは世の人の善と信ふなり
ふは世の人の善と信ふなり
より知るとは世の人の善と信ふなり
との少くは世の人の善と信ふなり
よなくは世の人の善と信ふなり

内西とはわいらんよりいつた戸組の住をくはなすあくはく
田舎を方代お懸りしてよのけひをうらうらういひ習女とよふ
と此のゆゑある名敷の住人又方代住人々多きひはくは
何方に住み戸組や又法座して候人少く法座をたれ
ゆゑに秋きれいかりあるあつたむむくお人る武を方代
よあつてと持たせよせいのゆゑよあつてをいふ家今のまは
切あつての人と候やうなれもまあ人よはつてをいふ法座
法座をま持てく百なりやうなれも法座をたれをたれと
はれはれはれ人かたえこころけつらぞあつてをいふ法座
樂いせはれ人への執力つたれゆゑ人よはつてをいふ法座
よつてつてとていさくこころけつらあつてをいふ法座
んて戸組をたれうい病なれとく執力なれはれ人馬と法

なれとてつてこころけつらと候と候りて軍役とうをせらりひ
て候物あつてとて君の物とてとて候とてをたれとてはれと
ゆゑにせはれ非ひさくとたれとてはれとてはれとてはれと
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
はれとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
たれとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
られ人よやこころけつらとてとてとてとてとてとてとてと
はれとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
と家とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
のちよとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
きり候とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
りて候とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと

夕て山は谷ありて子孫おかしうてふなるはとも風俗の
よききよき智くそのまじひと知人をくむ

一朋友同うをあるひに病あきあひに事なり物な
りたるまじきあひに人々も二人のゆかりして天下の法
をむすなり法人建憲はに事むしりてあつてなる事
也 養ふまじりの事 養ふはたつては時を人
此物さうときくをりて 此物な養育は 此の町人
伊賀一玉の位とせて 伊賀一玉の位とせて 伊賀一玉の位と
折上り中二玉の位とせ 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と
とてそのいひをくむ 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と
とるゆかりをみそ 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と
一人とあはれあり 位のちをなり事なり 伊賀一玉の位と

百姓も他よりなるをり 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と
千ねもき方ねも 町人うらうらなる事なり 伊賀一玉の位と
乃ものことさ感るをくむ 町人は大分れはとて 伊賀一玉の位と
り六何のりて 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と
利とせくさるる人 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と
あき人とあはれあり 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と
痛むは 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と
すなりとて 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と
いふらん地のまじき 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と
一人よらるを 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と
伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と
手貴にせしとて 伊賀一玉の位とせ 伊賀一玉の位と

のあき人よりかふいふくなくいひ初むればよきも
そそるるはもうすのなるゆゑもくも茶飯を以て
米千石の道貢ふまはとて所人二五石を以て我よ
くれは一旦利り有るやうにほくも武のせんかきり有まじ
りこのつとこつとくは不令し親おの物とくうりてさる也
それわくの別別をくして所次とせりう汝おれを何そ
くれんといふもそあるとりのゆゑ一玉のほくも
一玉のまの換をりて天下のほくも天下のまの換をり
しんこれ王君一人と欲天下と治せて下と欲一人よなれ
ふあつた何そ一玉と欲まはの欲と欲ひひりや所人
もあつた何そ一玉のまの換をりて所人千人う百人う
にわたり天下の風俗とれ一とまてふもまの換をり

まはくはよむいふ代もくも大君とあをも生かうり
よらふもそ世はな少力の武士とてまの換をりて何そ
不知いりりかうり人いふもそ世はな少力の武士とて
まの換をりて何そ世はな少力の武士とてまの換をり
りこのつとこつとくは不令し親おの物とくうりてさる也
それわくの別別をくして所次とせりう汝おれを何そ
くれんといふもそあるとりのゆゑ一玉のほくも
一玉のまの換をりて天下のほくも天下のまの換をり
しんこれ王君一人と欲天下と治せて下と欲一人よなれ
ふあつた何そ一玉と欲まはの欲と欲ひひりや所人
もあつた何そ一玉のまの換をりて所人千人う百人う
にわたり天下の風俗とれ一とまてふもまの換をり

一朋友同うけたり書法なりといふ小利大換とて日傭
のなれ物なりといふ我りのまの換をりて何そ世はな少
れく世はな少力の武士とてまの換をりて何そ世はな
傭のなれ物なりといふ我りのまの換をりて何そ世はな
地と金千ありて日傭といふ日傭といふ日傭といふ
よりこれのなれて日傭といふ日傭といふ日傭といふ

日傭もかきく桑およはれまゝ人殺を方入しき如く
巨六千をくして不入ぬわくかく被控る及ぬつて
名八日傭以一人をん公義を六千あり又子金かきひて
倍くの出控のこをくは度ふ田畠控毛付くとも併
い急しそくくく武士乃能事約と江信付す如く
少く百姓乃田こあくこ証なき度なるややをなくやう
のふとばえつききして日傭二千字のつあつを歩役
を方可入控るを方入も入子金可入のふ子金金を
入して永代被控をくぬ一旦大分相入のやうたぬとも
あふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
士より若く山門の地理をも人れつらひやうにせ功若よな
まのりいふも終りてせせせせせせせせせせせせせせせせせせ

折していふてんてん成は主統を和の名はえつき付く
視力もかりより本ゆへ控の堅固なりやうに情と云
P老ふとぬ日傭の歩もあるきやと候と有りて刃と
此記中は今時決泡役事申の如役なくP名は昔後よ
外れ功名をぬぬよりくく控堅固をぬぬ日傭は日
視く視力とすくくくわひと有りつせんぬよ昔の人は
と八つとぬ建者よ昔のむを約くはひやうくたよく
はてこの外昔後よりあらとくあらと控る記名をぬぬ
控もつと割ぬるや控の堅固をくくくや一とぬはか
とりしてわけは取ぬるやとわいなりくくくくくく
池の振きりふいそこと入とぬぬあらとてあく生あつてと云
ゆぬ池乃ちとぬすあつてはき終控のやぬぬの治す

乃の言功ぬらん地して天下の方ゆとうせとりよせとく
武士の命あきやうみ侍ととも天下の山川の地理と金銀
兼穀の運送も統突れ万用と若所今分むのこみとく
仕度まきとく一仕度武士の所人よまきとくわん
わ知ひまき金銀の若所人のよまきとくわん
いん時有て礼送のたよりを成てはやまのこみとく
械のちあふとれとくわんはさうけとくわん
まかあくとくわんに入れ有るは世中のまきとくわん
はてはたは本の生きりやうへとく切らりやうへ
して社らの作らりやうのゆるぬも却てよく金銀の多入
ゆい海をりて天下の内よきくはまきとくわん
まきとく武士の命あきとく工高と下知一武士の命あきとく

もろろひりて世固よおまかるといふまきとくわん
手是らうけとくわんはまきとくわんはまきとくわん
やまにけいまきとくわんはまきとくわんはまきとくわん
也子まきとくわんはまきとくわんはまきとくわん
くはまきとくわんはまきとくわんはまきとくわん
をりはまきとくわんはまきとくわんはまきとくわん
一朋友同天文ようけして時度と知まきとくわん
也まきとくわんはまきとくわんはまきとくわん
明と知まきとくわんはまきとくわんはまきとくわん
災地まきとくわんはまきとくわんはまきとくわん
くはまきとくわんはまきとくわんはまきとくわん
まきとくわんはまきとくわんはまきとくわん

うめくんとす星八郎の位なり元のきくくはるる君の
威とうふふふんらうくして王莽の代と礼の徳あり
りれぬ時つ賢者いゆく王莽をふて下とういふんとす漢
家のまさしくち家の大名あり何ぞ義兵と発して莽を
誅とうりや賢者のまゝくは暗弱なれも上いませり莽の
愚逆とにくくして兵とて下を莽の上りたふありとよむ
つてらとひくをり漢の子孫ち家名大名よりとも下くみ
ちりとのありしいんくされと下の漢といくきりるく
ひくはきい家めくく莽の武逆威とゆふとも上
いませりち家の義兵に却て逆逆と成てて下れは兵
つてまくくをりかくくみきりるものありた大名といくこと
おきりくくをりくくち家の人知あり兵とて下すくは

あつらうく莽より下く問ありくは莽は下とすゆらん
云上のいまはよめてくも莽とをされて上はくくをゆかり
莽の天下と奪ひしを命て天子の團符とふきりあきまふ
形の莽とてくちりあつらんや漢家の子孫ありは兵名よ
おきりくくも下くそのく物とてちん莽よりたつて
くくはけけく莽の天下とすりてけくすにちんくも
まきまき莽に奪ひしり莽の漢家は天下とてくも
ちり也九人のけくはくくもあつるものなり前代は
よつてあつてく批の虎の威とかりくく君よりつて威威
の有りとあつて一旦の権威とあつて人のけくくはくも
こよはんとや思ふれとく莽に逆逆のをくくしてめく
威とめくは権威をり天下と奪ひんとおひて威と好

何と云ふなりけりや流雲の遊跡いふものふをりてくは
春云川を砂とありをとの末をりて出で自由とありんと
よふに初をりてはくはまよの念のうの境をわきよく
とらてくはありての水ふれをくはくは草木は切てくは
砂のくみまのちをぬぬくは一なるは河中に砂ありて
入る川と云く川と云のれはまよと云くせきして
末とての才是は何とてなりてくはや今の草木は切はく
そのくまのくはかくおまて地はまきりくわたりてくは
砂多く川中よおれ入公後よあふくても木の根ありて
山はみまきまきくは草木も有りぬとのくはありて山
わたりてくは山流の神氣うすく散てありて生るるゆきかけは
きよは流りてくはあつてくは木の根ありてくは砂の

ちことなりてあまの砂の中とくはありてまきくは川と云
まのい雲地よりいひきりしよは雲地くひくくさう或は
雲地よりまきくさうくあり地をくはくはくはくはくは
これ皆山のあまをさるをさうむくは川ゆをれた大
此大ぬ大ありては田代家を考とてをよくありて今
川と云あまきく山と云ありてくはくはくはくはくはくは
と中ありてなり中ありてくはくはくはくはくはくはくは
くは田代家を考とてくはくはくはくはくはくはくはくは
石の地と云ありてくはくはくはくはくはくはくはくは
是皆川を砂とありてくはくはくはくはくはくはくはくは
乃やうひんとては川と云ありてくはくはくはくはくはくは
ひきくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは

と不用存をりとのありて山川のまわりこころは海を
敷十島の内より大坂並に流る川との造形成るありて
同今よりありて山を谷と法度して草木茂るや
もともやうのりも入る砂のれりまきまきや 云ふ谷を
きりてさうも入るさうも入るさうも入るさうも入る
土砂のれり大坂より入る川ありてなりぬ境と云ふあり
ありて入りて大坂ありてなりぬ境と云ふありぬ

一或同今の本津川と云ふの系れより川ありてと云ふの作
保の川筋より河内路と云ふの系れ川筋と云ふを
他と云ふ流るさうにしていふれりまきまきや
ウチも一ありてさうも入るさうも入るさうも入る
よれりさうも入るさうも入るさうも入るさうも入る

大あ〜川ありてと云ふの系れより川ありてと云ふの作
保の川筋より河内路と云ふの系れ川筋と云ふを
他と云ふ流るさうにしていふれりまきまきや
ウチも一ありてさうも入るさうも入るさうも入る
よれりさうも入るさうも入るさうも入るさうも入る

今の地はむら〜地ぬ(山も田あふ〜)わ〜事
もと年八日備のうけうりにく地つ〜あ〜は〜
二十里とりの新地あ方と〜半余里をり流あ〜
さうに〜あ〜ん〜つ〜あ〜も〜の介
ひつ〜き〜も〜て〜二十里所の赤川の〜武断をじ
にして大和河内の上田島成は〜も山〜あ〜く大ぬ
〜ふ砂と〜〜入〜は〜く砂川とあり河と〜成
〜あ〜い〜大和河内いあ〜る〜の川の流
田島よを分と〜も唐まで砂をれ〜何〜もをりか〜
う〜新川をせ〜は〜も有〜をれ大ぬの
時りあ勢と不知ぬ〜も〜て〜中〜か急う〜こと
か〜を〜川乃長〜いまの一倍も成は川た〜りそ

きあをりそれとの〜方〜も水のた〜あをそ
く〜く〜其と流よりト大坂〜の由路か〜り〜
を〜り〜本津川と〜り〜〜難を〜〜大
和河内の上向を〜り大をり〜ん赤河川と〜とあよ
目い〜をり〜り〜不日〜も〜か〜不自由
か〜と〜ら〜川のつ〜〜地〜り〜よ
あ〜を〜を〜を〜川の水ひと〜り〜河は〜
り大和河内和氣紀節より地形ち〜也む〜大和川
〜と〜の〜〜あ〜か〜これと切を
あ〜い〜川あ〜〜ぬ小あ〜砂中と〜り
て〜〜〜河川も今〜も〜梅〜の〜ん
とせ〜が〜も〜の思と切されたも〜あ〜これを

河之川初湖水の道を平なりみく口作らるる方也
 奇石積水屋敷ね若田の下あり湖の若とち打ちき
 ら病とく作つてく作りももより久きとね思ふる也
 作らん 云々よ思ふるや耳せん湖ありえといふ一ね一
 名のゆゑありてはあつた地は元のてじの口より志
 う向ふあつた湖の若沢切か湖ありあつたりて流川の
 あたなり湖ありやくかく病か流川ありて成る今の
 ありてはひるじつ一ねはあつたり多き耳ねて一梅と
 して甲斐有き一入敷ありわたりたみいを年の地底小
 地とゆりあつたりといふもあつたり一ち流り水色い
 きよち地と地流りうるれと地底よふゆかあつむ
 事ありんちの白鬚の香井に今水の中へ入てんをといふ

と氣流ききと流河があひあつて作むは流川のあつと能
 程とつたりとれよりち地ありあつたやうに水底のあつ地
 ありあつてのやうにありたとせらるるいふれ一ちりま
 古人の河言ありて川に地流るる用たり人とちひ且山
 川のちりるれとては後山川地流るるものちあつめ
 流ひきいよの入りちりてけいといふと河言もあつた
 の言も推してすまのちもあつて古人のち流るるかん久も
 かく高人をちの利か一とてこのちりあつたりんあつたり
 のちもいふくあつと砂石河あり入り一ちりてはさ
 こちもいふ川ちりあつちのち流るるを能成といふるは流
 ち流るる上向のちもいふち成り川流の造作とあり
 山人よちりて水とち流るるあつたとき一ち流るると

田高と夫の流浪一飢よ及ふのいまありて一仁徳の人
を七とせりて利乃大ふとせりて新川の流るる
堅固なるは流るるの状もまこと大なるなり

一或河を百歳後のういを記せりていふと昔人たふ知るは
さうありて山家ありていふ山家を今に推しあふんや
云乃流るるのたありていふたのいふとまふをいふ
山を人々教へていふさういふと半用ひていふ
用ひていふもえと物くふのいふとさういふは水扱も
さういふ今山家は山家のいふとせりていふ易うなり
流のた流るるのいふ山家はさういふとせりていふと
すて流るるのいふとせりていふとせりていふとせりて
とせりていふとせりていふとせりていふとせりていふと

あつて川にさういふ物もさういふとさういふとさういふと
河乃乃ありていふとさういふとさういふとさういふと
ふとさういふとさういふとさういふとさういふと
より二ふ石とせりていふとさういふとさういふと
田代にそのまこと田代とせりていふとさういふと
けさたの年いふとさういふとさういふとさういふと
二度の扱もいふとさういふとさういふとさういふと
さういふとさういふとさういふとさういふとさういふと
大石のいふとさういふとさういふとさういふとさういふと
びうのいふとさういふとさういふとさういふとさういふと

文政九年戊午年春三月十日於山田村亭中村直道

集義外書卷十

窮理下

一朋友問佛法は生國の天皇よしかと云ふの事と云ふ
て文字あふ若ともう仏教は如何と云ふかきと云ふはきき
たりと云ふと傳くをきく日本よしかと云ふはとも云ふと云
つゝ前代あつたれと道とて留まればと云ふなりぬゆふゆ
名法と云ふて再具は成るべく作はし釋迦達磨の再
誕して世に在りや聖人の徳をうへる世の事と云ふ今若
やうふらむと云ふの内卯よしかと云ふは佛者大守は七
大と云ふ百年の内卯よしかと云ふは七と云ふは十の事と云
ふ事よしかとも云ふの内卯よしかと云ふは七と云ふは十の
事よしかとも云ふの内卯よしかと云ふは七と云ふは十の事
よしかとも云ふの内卯よしかと云ふは七と云ふは十の事

いかにゆたの法と都に流りてふた出家の法をさす此
者世にやとて仏法を久かりて一若此ありてやうかれとも
奢世道とんく居てくひと一得道の法を執りて佛
法中具せんや居るも 云有言やとの事ありてとも
有てよと成てよ有てひ人も病名とも命の終りい生
ひてととも生んてありて病をせしてらるるも佛者を
こそとありんたるはたのりてありてらるるもまは仏若
は佛の心ありて礼せよとありて一礼せよとてふ古刹主舟
うはらひありてんも是を大なり憂をとも今附と流生ののど
まは二入を教付也存生のまひひつかりて成て若利舟
とひありて事おれとてくひんく仏若成ともく一
悲信とてれくありて我の仏若かやていありてひて日

本の心ありてなりぬりて仏やありて教なり
一朋友同法なる世のまはる思進のりもなきて礼せよとあり
成りありてひ成りありて何を也 云其謂多とい
とも日年の思ひて七百まで本流て礼せよとありてま
たさうくに大綱ありてまはる一減のたまはまはる一奢と
仁政と夫ふなりてまはる一仏若の得たの法と夫と堂塔寺
多建ふなりてまはる一佛と一のまはる一六六君并に執権
の人々を法の宗派にたれを高くした政とありて
てと小人もまはるひも一小知とありてまはる一おせいも
あまひもまはるひもひもひもひもひもひもひもひもひもひも
人これ情よありて極まらるる小人の利とありてま
なり早死して下の表徴もなりてひも利害ふたると

あはれおれよと記されたりとわかれしり也三平の義を
似と利とすことしりて我れはふらひしりてれと利と欲
利とすり付し君臣天子の間も夫の利のこまと成り其
義を親をむねとす我れはむらひしりてれと先人
臣の礼をりまてと看く仁政と夫らふらと君を執權と
大名小名を不仁の人とわかれしりても驕く用たり
さして下とわらうの所を我れは入ると又懐くおのれ
理をわかれぬと我れはきこくこと天災地変と我れは
天下の表徴と成ぬ人々を我れと天下の表徴とわらひ
乃ぞこれと大なりかきしりて我れは若の法と夫と堂
と多建ふありしりて前車の覆らる後車の戒る眼
前よりと我れとさるをわらひしりて我れは法と人我れは

の法ありある成り其法を夫の僧よなりと記されたり
て制しりるありしりて我れは夫の力と我れのお家と我れ
と我れとわらひしりて堂塔を建ふしりて中興といわれ新寺と
まて用山といふ所の名とむらひしりて我れは堂と成り
と我れと法下上人といふ人よなりと我れとわらひしりて
法人親と我れの義ありしりて我れは法の下と我れは後世
と我れと我れと堂寺年月よ多なりぬらむと我れと我れと
と我れと地福といふのひらきしりて我れは人よ我れは
と我れと長久といふと我れと天照皇の御宮といふ本所作
中して我れは我れと我れと我れと天照皇の御宮といふ
のこまと輪を明神なりと我れと我れと我れと社といふ
なりと我れと山と社といふ我れと我れと我れと我れと

きりふりみくしんて其山林とほくせり勝て討つて
大木のみをくちせり十三年一度もみりおれり
何やく夥ねてと山乃つてけやとのりいをた物めく
をくきくせん次世用の卯も大なり此まのそふり
をた物よるごとくはく法世得たの法治せりやわれ
壹ち多ふれとて山林乃力治せり川くあききりぬ
かして世中あつてけきハ偶元平治の世のそれい
本く法盛せり権と執りてくあきと下一統せり
もくろく子成家もくろくして或十餘年と後又
の礼世出ぬねね家之代より小糸家の初とてい
乃み治りて天下は用物不目使われとての所く
壹ちとせりあきとせりいさくもあきり川くと
たりぬ小糸の泰府時頼俊とほく満くきりて

九代は治りきされも治せ久くして壹ちもふまかり
川の神礼又うきくたりぬかくて世の中まきけきハ
沈乃礼おれと世中久くして同きりいさく川次
治りぬ足利家代はきくして下の兼長一壹ち立
ちりて山川の力まきけきより東山家の河乃物と
相を沈乃力今にのこりてあつたそとて代の満
ゆりその後大札おれとて下執りてあつたそと
ぬく任をきとて下の礼せ久くしていさく
川くおれとてゆきぬ言氏の子孫十代二百
任長の威勢とつひひひりて十二代あつた
世乃一統きりてあきとせり中輝りぬ園く
坂の軍ハ

居かゝるゆゑをきく一戦つゝあはすはぬは礼世であら
実ハ秀吉より今たつゝとては著る日と月とに在りぬ
とよと老利父丹の所寄齎出来くは公の未だの嘗ちの由
きり日本開闢より出来あつゝはむしゝ思やうなる天下
之執権ありはく礼世と歎くもあれは御南蛮ハとトと
得る多ひは公の治世もよく君を正君仁君つぎくひ執
権もあゝと人かゝりまゝのいひはきりゆり物も山林の
力つゝくして今ハをきりこりとの一戦ゆり君を臣も忠恕
正事かゝりゆりて私をくせりといふも天下の根が
まをふつゝはくは十の間のりしかゝ今政をといひ
家をり等と治ひ治りてハ礼世と歎くもいふもいふより介
はるかゝ山林のあはるるの用開闢より出来あはるる

なれは礼世も久くかゝん礼世と歎ゆは公義をくめは
とねハ本より礼法にかゝるはく坊主の言ハかくし治
くも治らん雲ちを軍治もよくもこゝれをいれ
二夜とよみんや力を治の言ハの家たまハ盗賊と歎て
方こふとこあられゆんよまことのハ内もの乞食非人と
かりてうせぬと世中歎くは命と歎て津倉の持持
とふめいゝとて言ち信のゆもあゝるるの百年もまハ
山く本のとてくもきり川く本のとてく物と歎く
一朋友同公老の語りてゆ世中礼世と歎くもいふは公義の
少くも市吏の負出来てこゝとふ天下の侯爵と歎くもいふ
とや云てたの言なり水はうらやあゝ流りて理りて神
明の縁必死なれもたはれも言ハのよの裁判は振あ

と申す今のわがとめは兼お成物と箱ときせく細く不を
ゆへにやうぬやうにほいねく事とのけのえいなりと物なす
少く買へくひ 去るねくくと物なすよとよと禁中兵
ご家元いさくお成物一所よとご大親作ゆもさるくれ
義もふむご家も或家もよくと各兵ふいご成作のよ
いふもふく領家よれ義のよとごおとふふつとご
うやまひなまらるくごご家も今お城中の物なす各門
大言を形作いさるぬ物なすおの親よれまらるご内い大をり
本よとひいと物なすあくらとごごご大夫と射をて統立
あつ内より大おりうごのひいと大と射をて統立
よそのよとあをくおの親よとごご統立よとご何なり
その時いごつとご小をりけよまらるごあつ八時よりなりて

大儀をりて器の費を大をりて也士を教へ作りの物な
ぬ多の江戸をるる也ごご法士の今い中く講へき
カもなごそれいさごそれまごそれらごそれた物なす
やうとれ一病よとねやとの仰ふおれ共と親作
ゆはなごこれよとごご信成出来まご一代いごご
そ子たの代も迷惑よとご百姓いごご困窮のじ
ゆて金作の秋のね入もなごねやとのゆ也可今も留ん
うひごみ仕いやとのごのい金作者ゆとごこれお救かく間
にむ百十石のゆいごごご大方やごあをなりまごお家の
堂もいご儀よりのいゆはご物なごごあれたそれごご
一よごい山城の各洛中洛外をるごごごごごごごご
の大小ををとごごごごごごごごごごごごごごごご

二千貫月ついで入るべき中にも少くも千貫月ついで入るべき一寺を
きくぬと申分りて千貫月二千貫月やうついでぬき
を記すには何れも中敷は太公の御家のをくし
をりうぬは任んさのて大なるやうに六貫月ひた高直東
少くも三貫月を記すは任んさ千貫月ひた高直
中にも今二千貫月寺所田中へ建たぬと合と千貫月ひ
入と中にも三貫月寺所の入用とるると千貫月ひた高直
城下は士屋敷の而残修繕して六十貫月も世園をり
にてぬきあられは山城の中りちも千貫月ひた高直入
つとり中にも三貫月寺所の入用とるると千貫月ひた高直
て一貫の寺の入り申すは二十貫月の士屋敷の世園をぬ
二千貫月ひた高直にせりて千貫月ひた高直にせりて

百姓の世惑人の家のついでに修繕をぬき右ははりりよき
つとりて中にも三貫月寺所の入用とるると千貫月ひた高直
く六十貫月簡天下とせりてついでに日本にひた高直
とるると六十貫月のるよひつとるると修繕をぬき
まかの費は尤有道の世も六貫月をりてついでに
つとりて中にも三貫月寺所の入用とるると千貫月ひた高直
築常一掃とせりてつとるると修繕をぬき右ははりりよき
来て佛者の奢りやまにたり唐僧もく人ち多建つ
らぬ君臣もく仁君忠臣もく世にたもは一万貫月ひた高直
とあきつとるると世中のはつとるると修繕をぬき
びりて大なる世の僧あるとく仁法無具の法とまんと
祿うひと書つとるると修繕をぬき右ははりりよき

と忠佛をあらわすふりぬりぬり知人きたるといふ

一 朋友同世中凡俗のあはれといふ物としてまじりあつては
云先長輩とある輩と敬て後禁戒と侮して一理と
侮してこそ人徳と侮(け)て天理と侮するのみ不敬
て人徳と侮するのみ不敬と侮するのみ不敬と侮する
人徳と侮するのみ不敬と侮するのみ不敬と侮する
ともあはれといふ物としてまじりあつては

一 朋友同むしうの西目代よりふりあつては下は統織と一人なり
と代はあつてあはれといふ物としてまじりあつては
いさかかあつてあはれといふ物としてまじりあつては
あ人の徳の端をその相所お役の威勢あつてその徳を
あつてはこれと記も思入もあつては

と忠事いふれねどのその國天下のりまめは成り
とあはれといふ物としてまじりあつては
と物とすそのあはれといふ軍陣のりまめは成り
將軍の徳の端をその相所お役の威勢あつてその徳を
あつてはこれと記も思入もあつては
と忠事いふれねどのその國天下のりまめは成り
とあはれといふ物としてまじりあつては
と物とすそのあはれといふ軍陣のりまめは成り
將軍の徳の端をその相所お役の威勢あつてその徳を
あつてはこれと記も思入もあつては
と忠事いふれねどのその國天下のりまめは成り
とあはれといふ物としてまじりあつては
と物とすそのあはれといふ軍陣のりまめは成り
將軍の徳の端をその相所お役の威勢あつてその徳を
あつてはこれと記も思入もあつては

云森園虎殿と秀吉公の驕り何れ日本の國様とを成
ぬふたあゝぬ人の年月も一まゝかゝればなんぢさうを
すべし日本は金銀を記せしむる物なるをんを
少くともみえ天札よめんといふを多くある物なる
夫を小人の治り晴天の君子に治る世中ゆゑふ治る事
され何となくすかゝりて人の礼儀も度ふ事の也王
代の整成り一それありて一すまゝ衣冠の制正樂の節を
習ひしは老人たれ文武の法いふは及そ僧の得た法を
正し治む世中皆のふゆゑふをてそ成や主治の世
こそ世中ひろく後さうさる成一まゝいりてを記し
ぬいそりてくといふ久きくをいふくを治りてハ王代
のてく千歳二千歳法をも物をもや秀吉公よく日本を

一まゝかゝりて高藤と貴らさふ戸山は只一代よてむ
き成のてにうけりて大なるぬまの情を書成るる
高き人念ふ不美も一と世も好む今と目出友の代り
成と極むるも人たれ右法もろふたぐひ 同其制を
いひのたむてくや 一まゝの人たれさる軍國の遺風
ぬく治世の神よあゝはふ治世の神よ成の宮位をて
之士と名付けるそのハ先人の世つたてか天爵よてむ
平士もくもよ下おろりふむのやうも忠なり一忠義
なるより一戸の爲惜み忠義のトにあらさ刀一よてむ
わくは表工高りさすとのよハ士いらさ刀一よてむ
右刀と節制のよせ若わくは右刀ハむつてけむハ
のよよさき刀とあり一は也人たれ礼義と記しそ

せめてこれやとの割に先あるべきもの軍中の形と年
生ふ用は一代を久きくも平生の形と軍中も用はして
我陣も威ありをいふ今軍中のこころと云うべし
よふに法皇の風俗もあつたをいふも武臣は嘗ての
りあつたをいふも武臣は嘗てのりあつたをいふも
かもあるにいふけつくと右の忍びひびきれちさかひり此
の武士やといへるもなきはけり肩衣袴大小此風俗ありた
まりふりいふもいふせめて神武天皇の代は中あつた
それをしていふもなきはけり肩衣袴大小此風俗ありた
人など明をせよとしてすまみと云うはつと云うもよく
法をるも久の代は中あつたは後世中あつたは時を
いふ世も成るも大なるとして天下と云うは日本に

いふく候をくもつて候はは金つりく舞殿を
一朋友同舍つりくわは惣柄あり物をとりまじ神皇
の衣もゆるや云神國なるやふ惣柄を言ふもくす
つぎのめとありまをれは大方のゆふをいふもくす
ゆり多惣柄と云うはさすか人もはゆりては將ありす
の衣もを將也同する人のまはつてはむむむ將の者
つぎ柄をくもる人も我公よりひひひひ何程と云うも
若うもすきく候はいつく云惣柄と云うてふりぬは理
法まりさすかやとあれはゆふもまはつたかむさうりよる吟
味をれは惣柄と云うは十よ一ひり二ひり七ひり八ひり
のよそい今も吟味をく惣柄と云うはゆふもまはつたか
はゆふも不他の衣もいふは世を非にひひひと云う

と厚くおやく義多うてい武士方なりきぬなり

一 朋友同須物の唐より倭うをこぞ日本此物をもさるる(こころ)
志を云今分ましく唐物とよりゆくの南は日本物言
まると法人迷惑に存ふ(こころ)まぬは武官かしくゆめゆめ
女と女つとあ奴か(こころ)ゆめして男のまきんは信りて女を
おさむ(きい)るか(こころ)女おる(こころ)つとむらやふ世中ゆり
くとおゆ(こころ)法と出(こころ)境(こころ)来と極(こころ)を婦人(こころ)を
須綿のまをさる(こころ)やう(こころ)せ(こころ)日本(こころ)の(こころ)何(こころ)う(こころ)か(こころ)
ゆり(こころ)ま(こころ)や(こころ)ま(こころ)茶(こころ)の(こころ)唐(こころ)高(こころ)兼(こころ)係(こころ)お(こころ)ら(こころ)ふ(こころ)と(こころ)用(こころ)と(こころ)な(こころ)り(こころ)
ゆり(こころ)下(こころ)ら(こころ)ま(こころ)と(こころ)政(こころ)と(こころ)飲(こころ)と(こころ)大(こころ)さ(こころ)る(こころ)國(こころ)か(こころ)ま(こころ)ま(こころ)さ(こころ)る(こころ)な(こころ)り(こころ)

一 朋友同(こころ)ま(こころ)の(こころ)ま(こころ)市(こころ)か(こころ)あ(こころ)る(こころ)ま(こころ)人(こころ)と(こころ)高(こころ)代(こころ)の(こころ)大(こころ)名(こころ)の(こころ)中(こころ)か(こころ)
人(こころ)は(こころ)ゆ(こころ)り(こころ)人(こころ)は(こころ)た(こころ)い(こころ)と(こころ)あ(こころ)を(こころ)と(こころ)り(こころ)ゆ(こころ)い(こころ)と(こころ)ま(こころ)人(こころ)は(こころ)大(こころ)名(こころ)を(こころ)ま(こころ)か(こころ)を

くま(こころ)い(こころ)省(こころ)ま(こころ)く(こころ)い(こころ)て(こころ)下(こころ)れ(こころ)政(こころ)及(こころ)か(こころ)ふ(こころ)あ(こころ)の(こころ)る(こころ)と(こころ)ぬ(こころ)り(こころ)害(こころ)を(こころ)
下(こころ)い(こころ)ま(こころ)の(こころ)人(こころ)は(こころ)ま(こころ)く(こころ)り(こころ)極(こころ)ま(こころ)あ(こころ)を(こころ)ま(こころ)く(こころ)り(こころ)ゆ(こころ)い(こころ)我(こころ)お(こころ)の(こころ)り(こころ)ゆ(こころ)い(こころ)
終(こころ)と(こころ)人(こころ)は(こころ)ゆ(こころ)り(こころ)人(こころ)お(こころ)れ(こころ)も(こころ)終(こころ)若(こころ)奴(こころ)や(こころ)ふ(こころ)ぬ(こころ)る(こころ)ま(こころ)さ(こころ)と(こころ)い(こころ)る(こころ)
ゆ(こころ)り(こころ)ゆ(こころ)り(こころ)極(こころ)ま(こころ)ゆ(こころ)い(こころ)り(こころ)ゆ(こころ)い(こころ)と(こころ)終(こころ)若(こころ)ま(こころ)い(こころ)と(こころ)く(こころ)公(こころ)根(こころ)ま(こころ)く(こころ)り(こころ)ゆ(こころ)い(こころ)
あり(こころ)明(こころ)く(こころ)そ(こころ)は(こころ)終(こころ)若(こころ)ま(こころ)奴(こころ)い(こころ)と(こころ)り(こころ)ゆ(こころ)い(こころ)ま(こころ)人(こころ)の(こころ)終(こころ)を(こころ)終(こころ)使(こころ)れ(こころ)ぬ(こころ)
ま(こころ)ら(こころ)一(こころ)層(こころ)い(こころ)ん(こころ)れ(こころ)礼(こころ)と(こころ)知(こころ)ら(こころ)る(こころ)ま(こころ)そ(こころ)い(こころ)あ(こころ)け(こころ)き(こころ)も(こころ)湯(こころ)を(こころ)ま(こころ)て(こころ)大(こころ)
氣(こころ)と(こころ)ま(こころ)く(こころ)う(こころ)を(こころ)ま(こころ)れ(こころ)大(こころ)氣(こころ)の(こころ)神(こころ)は(こころ)礼(こころ)を(こころ)り(こころ)は(こころ)終(こころ)ま(こころ)自(こころ)然(こころ)と(こころ)ゆ(こころ)
と(こころ)礼(こころ)を(こころ)ま(こころ)く(こころ)り(こころ)お(こころ)り(こころ)ま(こころ)く(こころ)公(こころ)を(こころ)ゆ(こころ)い(こころ)と(こころ)り(こころ)あ(こころ)を(こころ)く(こころ)り(こころ)ゆ(こころ)い(こころ)と(こころ)り(こころ)ま(こころ)
理(こころ)と(こころ)事(こころ)り(こころ)終(こころ)若(こころ)の(こころ)明(こころ)か(こころ)り(こころ)あり(こころ)一(こころ)今(こころ)より(こころ)後(こころ)の(こころ)人(こころ)を(こころ)は(こころ)終(こころ)ま(こころ)く(こころ)
か(こころ)ら(こころ)る(こころ)我(こころ)つ(こころ)お(こころ)不(こころ)あ(こころ)る(こころ)一(こころ)禮(こころ)儀(こころ)か(こころ)や(こころ)く(こころ)り(こころ)人(こころ)は(こころ)ま(こころ)ら(こころ)一(こころ)層(こころ)
大(こころ)名(こころ)を(こころ)終(こころ)若(こころ)ま(こころ)れ(こころ)子(こころ)孫(こころ)の(こころ)つ(こころ)き(こころ)國(こころ)那(こころ)の(こころ)よ(こころ)く(こころ)奴(こころ)と(こころ)り(こころ)あ(こころ)ら(こころ)い(こころ)
を(こころ)終(こころ)り(こころ)也(こころ)先(こころ)日(こころ)平(こころ)常(こころ)一(こころ)の(こころ)終(こころ)若(こころ)の(こころ)智(こころ)德(こころ)を(こころ)ま(こころ)ら(こころ)子(こころ)孫(こころ)代(こころ)に(こころ)

子孫ふたひのこころより其貴人とも教と云ふ
沈黙の法書におや〜を目前と云ふ佛の中納教を以
て中と云ふてして日蓮宗に教をこれやとの佛位を
とすものゝことか〜とひい今これ大なる福也〜自ら人々
有らそのゆゑに随處に礼行多し〜國民志してけりて家
中志あるか〜是を七國のおそり〜我々の中ひの法
よそをたすに人おや〜仏法の罪と云ふを〜法を令
ひいむと云ふ人おやひいりてた罪と云ふありたあ
またあをてりやとの佛法信心の人と〜神を若く儒者
か〜佛か〜國を〜と云ふ子孫の〜之業〜とな
か〜と入く佛位と云ふはやとの人なれ〜平人よありたあ
ふ仏教を〜と云ふ法の罪を〜と云ふ又儒者と云ふ

たり人ともあり〜の積悪の存続を〜と云ふは家おれと天の
あ〜れ〜と云ふた〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふは
め〜と云ふつひと云ふ〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふは
法よと云ふあり中納教の書中法華に〜と云ふはた〜と云ふは
意をたぬなり人々よと云ふ〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふは
と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふは

〜朋友間日外執権の書力を〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふは
多くはた〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふは
法よと云ふ〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふは
と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふは
権職の人よはた〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふは
を〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふはた〜と云ふは

おきふ少目のあの日見有けつる若も人まふいれをまねた
夫ハ不徳のせい也一きお習成人のみせしむせし其家の夫
おもの政乃屬これ未もをを小姓申くまねのまなりあると下
知よつと此中とまねの念千万もあふも習人うこれ務とく
天ゆり一人ゆりす若の雅も念し若も習人う此不和也
心ゆりそふあふもやふかく徳も化してあふもそのなり
一朋友同と家公肩衣袴の俗なきりあふあふ此書月ハ衣冠な
とハトはくのありきも精衣とありさのあふもあふも人
ゆりむ成衣一ゆりいりく云けよとにゆりた今の家成とハ
成るとはる也位向職回さり物有と何の友位うハ屋とて此
客地ありきも精衣何の友位とハ宿もそのあふハ物成ありき
いらおれし何衣と定持とえとてきり雅ハ成定なりと成

物成きてハ常物とておけさハさうはなを力持ともしりゆり所
築地の内ニ可し可ハ歩ゆと成の所とてえを成とて物成と
歩ゆあふハ正月の万葉うあふりく雅もたつと一戸ハ一向も若
の雅も世友の士も志り一志意とさり風俗さうハ月中も志師
けもた今の風俗れ中とてさうとていお物とてさふハ今の所との
家よお熟の教ハ志月と之樂いさりハ若物成ハ菊亭教若れと
いひり雅もそ有なるおとさるハ同代ハ武吉の若の雅も
志り一志意ハ分軍殊の志力も今の分とハ成海もさるもそれゆりんや
云中も念お多にくハ成海くハ先習り物成ゆりてハその
風俗の上もたは習人の都て法入建惑て住ちゆんとハ成ハ志
も習人志意ハさうくさるもたゆりて成まゆりてハ何ゆりも
すねるもそ也成はな成あふも人な精制法とさるし一戸と一戸

夕の暮を待たらば必だ雨を乞ふべし
くまに戸あり

文政九 丙戌年正月十日首書六郡御田村守

中村直道

集義外書卷十終

